

(2) グランドビジョン

① 言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示

概要: 共同体の疲弊やコミュニケーション障害等に伴い生じている現代社会の諸問題に対して、言語・コミュニケーションに関する人文科学の研究を充実させ、それらの成果を踏まえつつ、社会科学の方法によってデータを因果的に解析することで、原因と結果との関係を明確化し、包括的かつ実効性のある解決策を提示する。人々の共生の必要性を再確認しつつ、「誰一人置き去りにしない」世界の実現を目指す。

キーワード: 言語、コミュニケーション、共同体、データ・因果解析

ア 背景

現代社会では、パンデミックの影響もあり、人々の孤立が進む一方で、階層間や世代間等での分裂や対立が顕著となってきた。また、国際的には国家や民族の対立や紛争が激化している。こうした社会問題は、歴史的、あるいは、社会的に様々な要因が重なり絡み合ってきた、極めて複合的な事象である。その根底にあるのは、人と人とのつながりの在り方の問題である。言語の多様性による意思疎通の障壁、社会における共同体の疲弊や解体が人々のつながりを難しくし、社会問題を生み出し、また増幅している。市場や公共セクターの働きを補完する、人々の自発的な協力の働きである共同体メカニズムの重要性が増しつつあり、それを活性化することで社会が直面する諸問題をより効果的に解決していく政策が求められている。

イ 目的・目標

言語・コミュニケーション研究を充実させ、それらを踏まえつつ社会科学の方法によってデータを因果的に解析すること、つまり、信頼・利他性・互恵性といった共同体メカニズムの理解に必要なデータに基づき、集合的意思決定がどのように行われ、人々の利他的行為がいかんして醸成されるかを実証的に明らかにすることによって、グローバル化の下で多文化共生が求められる現代における共同体形成を実現していく。言語・コミュニケーション・共同体に関わるそれぞれの研究を密接な連携の下に進めることによって、SDGs が目指す「誰一人置き去りにしない」世界を目指し、社会が直面する諸問題をより効果的に解決していくための方策を具体的政策の形で提示していく。

ウ 国内外の学術研究の状況・動向

現代の社会問題の解決を目指す人文・社会科学では、理工系分野とも互いに連携しつつ、学際的、かつ、分野融合的に研究することが必要不可欠になっている。言語研究に関しては、個別言語の差異や特異性の背後に確として存在する人間言語の普遍性とともに関連する認知能力の包括的な解明を主眼においた研究は未だ存在

しない。コミュニケーションに関しては、言語事象の観察を丁寧に行い、認知科学の並行処理等も考慮した実証的・学際的研究が求められている。一方、データを因果的に解析する社会科学において、共同体メカニズムの解明に係る基礎データをを得るために、特に多様な個々人の行動を捕捉する調査が有効であるが、共同体の基礎となる家庭に関する基礎データを収集するための家計パネル調査は規模の点で国際的に見劣りする。

エ 中長期の学術構想

言語関係においては世界トップレベルの先端的言語理論研究拠点の確立を目指し、言語を基盤とする人間知性の可能性と限界を明らかにし、言語を踏まえたコミュニケーションや共同体形成に貢献できるようにする。コミュニケーション研究では、日本社会において言語の面で弱い立場に置かれがちな人々の言語実態を研究することで、社会とのつながりを回復させていく。言語には、発達、加齢、障がい、疾病等、様々な要因によってもたらされる可変性が存在する。それらを包括する一般理論を構築することによってコミュニケーションを促進できると考えられるため、コミュニケーション研究では、特に高齢者や障がい児の言語認知面、子どもや定住外国人の言語教育面、少数者・下位者や非専門家の言語環境面の三つの課題について解決に向けた研究を進める。共同体関係の社会科学的研究においては、このような言語とコミュニケーションに関する研究を基礎にしつつ、データ解析を通じて、市場、公共セクター、共同体メカニズムのそれぞれの強み・弱みと動学的な補完関係を理解し、メカニズムを活性化させる政策を提示できるようにする。

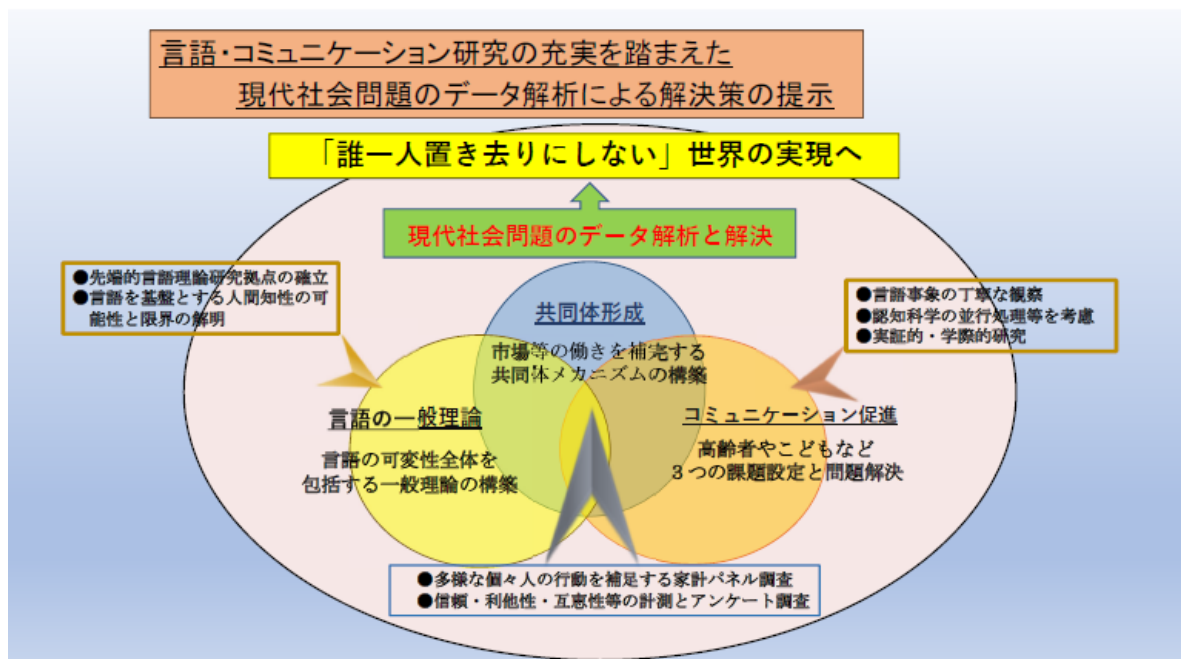


図2 現代社会問題解決策提示のメカニズム
(出典) 本提言にて、独自に作成